

ろいまた NEWS

ロイマタとはニュージーランド先住民のマオリ族の間で愛と友情の絆を表すお守りの名前です。

第3号

2007年3月20日

【発行】

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

TEL 03-6657-8539 FAX 03-3499-8539

E-mail: station@ai-port.jp

URL: <http://www.ai-port.jp>

子育て・家族支援者養成講座事務局

修了者の皆さんへの期待

— 私にできることは何かの問いから始まる —

NPO法人あい・ぽーとステーション

代表理事 新澤 誠治

四年前のことです。名古屋市で四歳児の男の子が母と同棲している男から暴力を振るい続けられ、周囲の人に「助けて」というサインを発し、それは受け止められず……とうとう埼玉に住む祖父母にリョクを背負い、家を出ましたが、駅員に補導され家に連れ戻されます。その後、また男に三十分殴り続けられて出血性ショックで死亡したという事件がありました。

当時、児童虐待を連日のように報道される記事を見て、大学の講義の中で児童相談所の対応の悪さを指摘し、論評をしていました。



しかし、この名古屋市の虐待事例に出会ったときに私の孫が同じ年齢だったこともあり、虐待が他人事でなく、わが子の

ように感じ、心がひどく痛み、虐待に向かう姿勢が変わりました。

今までは虐待の問題を遠くに見て論じていたのですが、この子どもたちを救うために、一人の市民として「私にできることはなんだろう」と真剣に思うようになりました。

私は大学退職後、もと所長をしていた子ども家庭支援センターみずべグループの私はそこでボランティアのスーパーバイザーとして、何も役には立っていない私ですが虐待の対応に少しでも役に立てればと通い、またあい・ぽーとの「子育て・家族支援者養成講座」で「子どもと家庭にやさしい援助者になつてほしい」と願いつつ講義をさせてもらっています。

私の話が長くなりましたが、みなさんは子育て・家族支援者の講座を受け、すでに3級を修了され、おめでとうございます。すでに子どものいる現場で働かれている方も多いと思います。しかし現場に出られると、色々な子ども、親がいて驚いたり心痛めることもあると思います。もちろん嬉しいことも多いと思いますが、私は講義でも語ったように、今、子どもが育ちにくい、育てにくい時代と思っています。

様々な気にかかると言われている子ども、親は本当は「助けて」と援助を求めている人だと思っています。最近では児童虐待に身体虐待が世間の注目を浴びていますが、本当はそれだけではない、子育ての放棄、監護を怠る「ネグレクト」が虐待の裾野としてひろがると同時にしつけの名による体罰や子どもを愛することができずに「大人と

子どもの不適切な関係」を起こしている「目に見えない虐待」として裾野が広がりに家庭に侵食しています。

今、子どもや親はあなたの援助を待っています。みなさんは様々な思いで受講されていると思いますが、子どもは今、愛情を欠乏させ、自我感情をもてず、人を信頼することで傷つき、さまよっている子ども、親がいます。どうか「一人の市民として何ができるか」と自分に問い、社会貢献の輪の中に加わっていただけたらと思います。

スウェーデン・フランスから

視察団が来訪しました。

3月6日、内閣府の招聘で来日したフランススウェーデンの少子化対策関連の担当者、日本の子育て支援の取り組みについて視察するため、私ども法人が運営する子育てひろば「あい・ぽーと」を訪問していただきました。視察団は、スウェーデンから、雇用省労働政策局長・ワッツ・ワドマン氏、ニーネス・ハム市長（前社会省分析部長）・イリヤ・バトリヤン氏、フランスから、家族問題省庁間代表補佐官・ジエリ・ディヌ・シカノール氏、調査研究政策評価統計局連帯関連調査課長・ニコル・ロトウ氏の四氏でした。

当日は、大学生のコーラスグループ「東京トルヴェール」が日本の童謡で出迎え、また子育て・家族支援者の皆さんも参加して、和気あいあいとした雰囲気のもと、各国の少子化対策の現状や課題について、活発に話し合いがなされました。

支援者から、男性が育児にかかわれない日本の現状について述べられると、スウェーデン視察団からは、「スウェーデンでは男女分担をみんなで考えている。働くか、また子育てに専念するか、どのような生き方をするかはすべて個人の選択によって決められるものである。そのためには、すべての人に多様な選択

肢があること、一人ひとりの夢を実現できる社会をつくるため、社会がそれを保障していく努力が必要だと考える」という答えが返ってきました。



フランス視察団からは、育児休業は九十八%の取得者は女性、残りの二%が男性取得者であるが、育児休業後の復職が保障されている点、また失業保険制度がしっかりとっている点で経済的な保障の面で負担が少ないことが挙げられました。この点について、スウェーデンの担当者からは、女性は育児休業取得中も給与の八十%が保障され、復職後も元の職場に戻れるという制度について触れられた後、「税金に対するネガティブなイメージを変えていくことが必要ではないか、税金を払っているからこそこういったさまざまな給付が受けられるのだという捉え方をしていくべきでは」という意見が出され、さらに「さまざまな経済活動と同じく、子育てをする母親は、子育てに時間を投資しているということだが、しかし、社会は将来のその母親の経済的な保障はしてくれない。自分たちである程度経済的な自立を考えることも大事ではないか。そして、人材は宝である。人材を有効に使うということについて考えていくべき。」とも述べられました。

最後に大日向代表が、参加した女子大学生に向けてのメッセージとして、「女性が働くことは社会の活性化、経済活力につながっていきます。子育てに参加しない男性の意識を変えていくためにも、若いあなたが社会に貢献して働き続ける意思を社会に示していくことが大切だと思います。」と締めくくりました。



第一回 札幌市 運営委員会開催

二月十五日(木)に札幌市で第一回運営委員会が行われました。委員会のメンバーは、青少年女性活動協会・寺田陽子氏、NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ代表理事・長谷川敦子氏、札幌大谷短期大学保育科非常勤講師・浜栄子氏、小さな談話室ゆらゆら話し相手・矢島満子氏、受講生代表・田部井玲子氏、札幌市子育て支援課・吉田博課長、札幌市子育て支援総合センター・高橋由紀子担当課長、あいぽーとステーション代表理事・大日向雅美、全国版世話人代表・汐見稔幸で行われました。

今回は第一回目の委員会ということで、それぞれに自己紹介をしていただいてから委員会が始まりました。委員会の内容は、認定者の方を対象に行っていたアンケート結果を基に行われました。認定者の方が今後どのような活動をするのが可能なのか、活動の場所としてはどういった場所が考えられるのかなどを話し合いました。保育園の早期保育や延長保育の現場で支援者の活動の場を開拓しているとはどうかという提案もありました。

一回目から活発な意見交換が行われ、次回に繋がる充実した委員会になりました。認定者の方の思いが委員会を通じて実現できるように努めて欲しいと思います。



札幌市子育て・家族支援者養成講座三級第一期修了生を対象に、二月十五日(木)、第一回バックアップ研修会が開かれました。参加者は三十八名。参加申し込み受付の際に感じた皆さんの熱意と再会の喜びをかみしめながら予定されていた一時間半はあっという間に過ぎていきました。

講師は、あいぽーとステーション代表理事大日向雅美と理事で全国版世話人代表の汐見稔幸が担当しました。今回のテーマは「活動状況報告および今後の活動や課題解決に向けたディスカッション」でした。

まず初めに、汐見理事のお話がありました。「子育て支援は非常にすそ野の広い営みであること、それゆえに子どもの発達、家族問題、子育て環境、社会情勢など様々な机上の勉強をしつかりしなければならないこと、同時に子育て支援は世直し、街づくりコーディネートであることが示されました。



出生率を回復してきたフランスなどを例に、日本の子育てがなぜ、しんどいのか。それは子育てする人が引きこもっているから。本来街とは巣もりするところではない。出てきて交流しあうところのはずだ。散歩したくなる街を

札幌市 第1回 バックアップ研修レポート

目指すべきだ。そこで、「ベビーカーの似合う街・さつぽろ」そんな夢を持って街づくりを進めてはどうかと。

それを受けて、六つのグループディスカッションが始まりました。グループ発表になると「ベビーカーの似合う街とおっしゃるが雪国は『そり』を引いています」と、早速難問が投げかけられ、その『そり』に扱いにくい面、危険な面があることなどが出されました。それならば、と汐見理事から「父親、専門学校、企業などを巻き込み、雪陸両用のベビーカー・そり」を開発するなど札幌バージョンの子育て支援を実現して欲しい」とさらに夢をふくらませるお話になりました。

このように第一回目のバックアップ研修は個別、具体的な問題解決という本来の研修に加え、子育て支援は世直し、街づくり、という大きな理念が示されました。「ベビーカーの似合う街・さつぽろ」を夢見ながら、参加者お一人おひとりそれぞれの活動の場にもどっていかれたのではないかと思います。

最後に、支援者の情報交換のためにニューズレター等の発行について要望が出されました。みなさんの熱意を大切に受け止め、是非形にしていけるように事務局も多角的なバックアップに努めます。



受講者の声 (インタビュー)

研修終了後、支援者の中のお一人、櫛田美波さんにお話を聞きました。

事務局：認定後はどのような活動をなさっていますか？

櫛田さん：地域の児童館の子育てサロン、民生委員さんが中心となつて、中学校を会場に行っている子育てサロンなどです。それから、札幌市の子育て支援総合センターのボランティアにも行きました。

事務局：今日のバックアップ研修はいかがでしたか？

櫛田さん：「子育てしやすいまち」は「生活しているすべての人が生きやすいまち」ということが印象的でした。自分の住む地域の未来につながる活動であることを意識しながら勉強を続けていきたいと思いました。

事務局：どうもありがとうございました。これからも認定者の方々が地域で活躍されることを期待しています。

乳幼児の

応急手当の方法について学ぶ



大会議室では浦安市消防本部警防課救急係職員の方々に「指導いただき、「出血の止血法及び咽喉に詰まらせた異物の除去など応急手当の基礎知識」について学びました。

今回は乳幼児の死亡原因に占める割合が最も高い「不慮の事故」を中心に取り上げて、事故の予防のために支援者が配慮すべき視点、そして応急手当の実技を、人形を使って講習していただきました。

乳幼児に多い不慮の事故としては、乳児の場合、窒息や溺死など、動けるようになってくると転落や交通事故などが多く起こります。そうです。乳幼児期の事故で多い「やけど」は、子どもは特に皮膚が弱く、しかも好奇心が旺盛なので起こりやすい。原因になりそうなものは近くに置かない・触らせない配慮（お湯もの・アイロン・ストーブなど）が必要、と注意点についてご指導いただきました。また窒息事故も、乳幼児に大変多く起こる事故だということ。飲み込む力が未発達であり、なんでも口に入れてしまったため事故につながり

実技として、「窒息の際の異物の除去法」に

ついて、始めに基礎となる大人の場合の除去法をベアになつて実践し、その後、乳児・新生児に対する異物除去について、「背部叩打法」はいこうたほうを人形を使つて練習しました。受講生は真剣に消防隊員の講師の先生からのアドバイスに耳を傾けながら取り組みました。その後、やけどの場合の対応の仕方と、大出血の際の直接圧迫止血法についても講義の中でご指導いただきました。

受講生からは、何度聞いてもこのような場面を体験してないと忘れてしまうので参考になった、定期的に研修をしてほしいというご意見もいただきました。



←次に、乳児・新生児の異物の除去法について教わる。片手でしっかり支えるのが難しい。活発に質問が飛び出す。



浦安市 第2回バックアップ研修レポート

今回は、特に乳幼児の場合の怪我の対処や異物除去法について学びましたが、本来は基礎に大人への救命救急の知識が必要ということです。予測不能な事態に出会ったとき、適切な対応が取れるかは、日頃からこのような体験を積んでいるかによって大きく変わります。

今回参加できなかった皆様も、浦安市消防本部では「普通救命講習会」に個人で申し込むことができます。この講習会はAED（自動体外式除細動器）の指導も含まれた講習内容ということです。広報などで募集をしているということなので、ぜひ、参加してみてください。

中会議室では「活動状況報告及び課題解決に向けた助言」というテーマで、グループディスカッションと発表、そしてその中から出されたいくつかの課題について、前回と同様、大日向代表と共に解決策を探っていきました。支援者として活動していく中で感じる援助者同士のかわかりに対する悩み、子どもへの対応の中で戸惑ったこと、また保護者の立場としての思い、さまざまな視点からこの一ヶ月のそれぞれの課題を持ち寄って、皆で考えていきました。一時保育について、大日向代表からは、「短い時間でも、そのとき助けられた思いは親にとって忘れられないもの。子どもにとっても、あのおきのおばちゃん、として残るはず。一時保育は『一期一会』の思いを大切に、楽しんでかわってほしい。そして、一人で抱え込まないことも大切。このバックアップ



←グループディスカッション風景。小グループで和気藹々と進めている。



共有の時間。大きな輪になって皆の発表に耳を傾ける。課題解決に向けて意見を出し合う。 →

ブ研修のような悩みを共有できるネットワー
クを大切にしてほしい。」と助言がありました。
子ども同士のけんかへの対応については「けん
かは自分の思い、相手の思いを考慮するチャン
スすぐ仲直りさせるのではなく、考えるチャン
スを与えてあげてほしい。考えるチャンスは道
徳の基礎になる。道徳というのは決められた
ことを守ることでなくて、自分が主体的に
相手の立場を思いやることのできる力である
と思う。」とまとめられました。

市への要望として、支援者より、地域の活動の中で、人手を必要としているところの情報が欲しいというご意見をいただき、市からは、子育てに関係する各部署に投げかけてみるという回答がありました。

支援の輪

皆さんの声をお寄せください
バックアップ研修がスタートし、支援者の皆さんから様々なご感想をいただきました。その中で、多くの方が、他の仲間の頑張りや悩み、思いが聞けて、自分自身も楽になった、という声をお寄せくださいました。この「ろいまたnews」で、地域を越えて、支援者の皆さんの声を届けていきたいと考えています。

紙面の都合上、掲載できるものには限りがありますが、
どんなお声を出していただきたいと思っています。
地域を越えた支援者の輪が、このニュースレターを通して
できていくことを願っております。支援者の皆様には
別途投稿用文書を同封させていただきます。
ご協力お願い致します。

(掲載の可否は事務局に「二任ください。」)



コラム

千代田区保健福祉部次世代育成支援担当課 中島課長から
今後の子育て支援についての思いを綴っていただきました。

千代田区でも、今年度浦安市、札幌市と足並みを揃えて「子育て・家族支援者養成講座」を開講でき、参加者、関係者の皆様には心より御礼を申し上げます。住民の少ない千代田区で本事業を実施することに不安がなかったわけではありませんが、第一回受講生の皆さんの熱意ある姿を拝見して、非常にありがたいと感じています。

さて、今回「ろいまた」への執筆を依頼されたこの機会に、子育て支援のあり方について、若干個人的な意見を述べさせていただきます。

区市町村という基礎的自治体が実施する子育て支援施策は、「事業メニュー」「事業の仕組み」「基本的技能・能力」という3要素に分けてみていくべきではないかと考えています。レストランに例えるなら、事業メニューというのは、まさに「メニュー」です。どのような料理を並べるのか、どのように盛りつけるのかというお客さんの目に見える部分です。事業の仕組みというのは、経営、店舗形態等、運営に関する部分、そして基本的技能・能力とは、料理人の「腕」、従業員のサービスに対する姿勢や技能に当たります。腕の良い料理人であれば、どのようなメニューでも美味しい味に仕上げてくれるでしょうし、味が確かで従業員のサービスが好ましいお店であれば、経営形態、立地や店舗に関係なくお客様は満足してくれるでしょう。また、腕のよい料理人であれば限られた材料や施設の制約があっても十分にお客様に満足してもらうこともできるでしょう。今の子育て施策は、いかにメニューを見栄えよくするか、ということに目を奪われがちであるような気がします。いくらメニューがすばらしくても料理人の腕が確かでなければ、お客様は離れていってしまいます。

「子育て・家族支援者養成講座」は料理人の腕を上げ、従業員のサービス水準を上げるための事業であると思っています。地域で子育てを支えてくれる確かな人材、すなわち基礎的技能・能力が育てば、結果として必要なメニューが生まれてくるし、限られたメニューの中でも多様なニーズを受け止めていけるだろうと思います。

また、事業手法についても、本事業のようなNPO法人との連携や、企業や大学等の協力を得る等の創意工夫が必要で、これもメニューを支える大切な要素です。

今の行政の仕組みでは、国や都道府県から次々とメニューが示されてきます。それをいかなる手法で、どのように料理していくかが、基礎的自治体の腕の見せ処であると思っています。メニューだけ並べて見ても、確かな裏付けがなければ住民の理解と満足は得られません。

そこで、住民の皆さんに満足してもらえるよう今後も認定支援者・準認定者の方々、あい・ぽーとステーションの皆さんと協力し、浦安市、札幌市の皆さんと切磋琢磨しながら、子育て支援に取り組んでいきたいと思っています。
(千代田区保健福祉部次世代育成支援担当課長 中島 秋津)

* 今月のおすすめ本 *

あい・ぽーとステーション代表理事 新澤誠治先生の著書です。

「子育て支援」～はじめの一步～

新澤誠治／著 小学館／発行

新澤先生の子育て支援の心の源流は下町で多くの人に暖かく見守られ育ってきたご自身の経験でした。その実践の一步となる「江東区子ども家庭支援センターみずべ」の立ち上げから展開までが詳しく綴られ、その至るところに保育の心がちりばめられています。各地の子育て支援センターの素晴らしい活動も紹介されており、新澤先生は子育て支援は「保育のロマン」、保育に「ビジョン」と「志」を持ち、創造的な実践をする要素があつていいと、子育て支援の一步を踏み出す人に温かいエールを送っています。



事務局から

「あなたのおかげで、本当に助かりました。ありがとうございます」という言葉が自然に生まれる、一つのしくみづくりがこの事業の目的です。地域とそれぞれの方の人生が、今以上に温かく豊かになるさまを心に思い描いています。

参加者だけでなく職員の方々の熱い思いも伝わる、浦安バックアップ研修でした。

春ですね。出会いと別れの季節です。春は特に人に優しくなれる季節のような気がします。

木の芽が息吹くこの季節、子どもたちがすくすく育っていくような強い生命の力を感じます。

3月もほとんど雪が降らなかつた札幌です。このまま春を迎えていいのかしら・・・？と複雑な気持ちです。バックアップ研修初体験しました。元気をたくさんいただきました。

3月・4月といえば春の訪れを感じる時期です。札幌の桜は少し先ですが春の陽気に誘われて子どもを連れて散歩が楽しめる街にしたいですね。目指せ！『ベビーカー』にあう街・さっぽろ！

(美馬)